

ヨモシラジナント、青道心ヲナシテ候へバ、今ハ哀アワレハ智チヲヤクト申タトへニ合テ侍リ、定テ聞シ召レ候ラン、

〔陰德太平記六十七〕光秀弑信長卿事

光秀ハ床几ニ腰掛テ、軍ノ下知シテ居タル所へ、京都商家ノ者共、賢顔ニ天下御手ニ入目出度候トテ、面々酒菓ノ進物ヲ捧ゲ來リケレバ、光秀祝著セリトテ、粽ヲ取テ食ケルニ、穀ヲ不去、酒ヲ受テ吞タリケルニ、喉へハ不入シテ、胸板ヲ傳テ流レニケレバ、

〔松屋筆記九十四〕胸ぐらを取ル、胸づくしを取ル、むながらみ、

俗に胸ぐらを取ル、胸づくしを取ルなどいふは誤也、室町殿日記十九、丁好喧嘩徒黨之事條に、つとさしより、むながらみにひしとつかみ云々と見ゆ、

〔書言字考節用集五〕ハトム子 鳩胸和俗所用

〔倭訓栞中編十九〕はとむね 癪をいふ、龜胸ともいふ、鳩胸と訓せり、

〔病名彙解六〕キケウ 龜胸 一名ハ鷄胸、此胸高ク出テ龜ノ胸ノ如クナル故ニ名ク、俗ニ云ハトム子也、類

經圖翼ニハ鷄胸ト云リ、龜背ノ條下ニコレヲ辨ズ、

〔增補下學集上二〕ハトム子 胸元

〔書言字考節用集五〕ハトム子 鳩尾

〔身體和名集美〕ミゾオチ 鳩尾

〔和漢三才圖會十一〕經絡 任脉二十四穴略 中

鳩尾胸 在胸前蔽骨下五分禁針灸

如無蔽骨者、從岐骨端下行一寸取之、蓋蔽骨者、蔽心之骨也、垂下於岐骨端、而長五分許有、其骨五分下、即鳩尾穴也、